

あした 未来へつなぐ

【安全への取り組み】

ひとりでも多くの人の役に立つために、この北海道で地域と人のために私たちができること。JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。「未来(あした)へつなぐ」ために。

文=本間 吾里砂



手稲にある札幌運転所に設置した「構内用シミュレータ」。運転士卓と指導卓からなり、指導卓では操作状況の確認と評価を行うことができる。

安全性の向上と教育の充実に向け 全国で初めて「構内用シミュレータ」を導入！ 北海道ジェイ・アール運輸サポーツ

北 北海道ジェイ・アール運輸サポーツ(株)は、車

両清掃、車両保守および整備業務に加え、平成十七年にJR北海道から受託した構内入換え業務を主な事業とする会社です。今年八月、同社では、構内入換え業務に携わる庫内運転士らの

技能向上を目的に、「構内用シミュレータ」を全国で初めて導入しました。

構内入換え業務とは、簡単に言えば、運行を終えた車両を保管する車両基地で、車両編成の組み直しなどを行う作業のこと。運転士などの構内では、信号や

列車の進路を転換するポイントが手動で操作するケースが多く、庫内運転士は自らの技術を駆使して、安全かつ慎重に車両を動かさなければなりません。車両の移動はもちろん、連結・解放など、いずれの作業も熟練の技術と経験が必要ですが、経年により、同社ではベテラン運転士が引退し、現在は運転士の約半数が二十



65インチの大型ディスプレイに映し出された映像は本物と見間違えるほどリアル。

代となつていきます。

彼らを対象に、より効果的な教育を展開するために導入した「構内用シミュレータ」は、札幌、旭川、函館ほか道内六カ所の車両基地の構内をコンピュータグラフィックにより忠実に再現し、画面上で各車両基地での仮想運転を実現。映像は時間帯や季節、天候などを自由に選べ、運行ルートも多様に設定されているほか、ブレーキ異常、信号機の故障、作業員の接近など、さまざまな事態を想定したシナリオが用意されています。また、運転士卓には、構内特有の前頭誘導合図を映像表示する装置や手

ブレーキ、留置ブレーキなどが備えられ、マスターコントロール設置テーブルを交換すれば、電車、気動車の両方の操作が可能。運転時の振動や音なども再現しているため、よりリアルな実車感覚を体験できます。操作時の運転データや映像はすべて記録され、再度操作したときに過去の記録と比較し、技術向上や課題克服の程度を確認できるのも特徴です。

本格的な利用はこれからですが、同社では「新人教育」「事故防止教育」「フォロアアップ教育」などで活用し、庫内運転士や誘導担当者へのスキルアップを図るとともに、それにより安全性の高い職場の実現を目指していきます。



操作時は実際に運転するときと同じようにヘルメットをかぶる。